令和５年度

日本植物病理学会関西部会

プログラム

2023 年 9 月 23 日～9 月 24 日

：近畿大学農学部（奈良キャンパス）

（奈良県奈良市）

日本植物病理学会関西部会

令和5年度　日本植物病理学会関西部会プログラム

日程　　令和5年9月23日（土）, 24日（日）

会場　　近畿大学　農学部(奈良キャンパス)
631-8505　奈良県奈良市中町3327-204
(https://www.kindai.ac.jp/agriculture/)

受付　　新教室棟 エントランス

事務局　　312教室

第1日（9月23日）

11:30～	受付開始	新教室棟2階エントランス	
13:00～14:00	総会 シンポジウム 部会長 テーマ：ネオウイルス学から植物病理学へ	209教室 209教室 鈴木 信弘	
14:20～18:10	一般講演		
第1会場　211教室 101～119 分類・同定，防除薬剤・薬剤耐性，生物防除・防除法，検出・診断，発生生態，その他 （菌類病，植物保護，細菌病，ウイルス・ウイロイド病）	第2会場　311教室 201～218 感染生理，病原性・抵抗性 （菌類病, 植物保護）	第3会場　202教室 301～319 感染生理，病原性・抵抗性 （細菌病，菌類病，ウイルス・ウイロイド病）	
18:30～20:30	情報交換会 （つながる館）		

第2日（9月24日）

9:00～11:25	一般講演	
第1会場　211教室 120～130 検出・診断, 発生生態, 病原性・抵抗性 （植物保護，細菌病，ウイルス・ウイロイド病）	第2会場　311教室 219～229 感染生理，病原性・抵抗性 （菌類病，ウイルス・ウイロイド病）	第3会場　202教室 320～330 感染生理，生物防除・防除法，その他 （細菌病，植物保護，ウイルス・ウイロイド病 ）

お願い

部会参加の皆様へ

・ 受付場所： 新教室棟 エントランスです．

・ 事前申し込み済みの方： 講演要旨集，名札/領収書，および，名札ケースをお渡しします．名札と領収書の払い込み金額をご確認下さい．別途領収書の必要な方は申し出て下さい．

・ 当日申込みの方： 参加費（一般5,000 円，学生3,000 円），講演要旨集代（2,000 円），情報交換会費（一般5,000 円，学生3,000 円）を必要に応じてお支払いいただき，領収書，講演要旨集，名札ケースを受け取って下さい．

・ 会場での注意事項：

会場内では名札を常時身につけて下さい．名札ケースは関西部会で再利用しておりますので，部会終了時に各会場の出入り口にてご返却下さい．

携帯電話など音が出る電子機器は，講演会場内では電源をお切りいただくかマナーモードの設定をお願い致します．

施設内は全館禁煙です．建物外に喫煙場所がございますのでご利用下さい．

・ その他のご案内：

休憩室として，212教室, 216教室, 218教室をご利用下さい．

休日のため，構内の食堂・コンビニエンスストアは利用できません．

最寄りの冨尾駅周辺のコンビニエンスストアもしくは、スーパー等をご利用ください。

構内に自動販売機が設置しております。

不明な点や要望などがありましたら，部会スタッフに遠慮なくお申し出下さい．

発表者の皆様へ

・発表10 分（予鈴8 分），討論2 分の計12 分の時間厳守で進行をお願い致します．

・ 発表用ファイルは，前もってWindows版「PowerPoint 2019」で正常に表示されることを必ずご確認ください．発表用ファイルは，スライドサイズは標準の4:3 で正常に表示されることを確認のうえ持参して下さい．

・ スライド作成に際しては，特殊なフォントや機種依存文字は使わないで下さい．また，後部座席からでも判読できるように，小さい文字や細かい図表の使用は避けて下さい．

・ 受付時に，発表スライドのファイル名は「発表番号-発表者氏名.pptx」（例，101-奈良太郎.pptx）としてください．発表番号は半角文字，括弧「」は不要です．

・ 発表スライドのファイルは，必ずウイルスチェックをお済ませの上，USB メモリに保存して持参し，**1 日目の発表者は9 月23日（土）13:00 まで，2 日目の発表者は9 月23日（土）17:30 までに受付に提出をお願いします．**また，提出時にご自身で必ず動作確認をお願いします．USB メモリはその場で返却しますが，念のため発表終了まではご自身でお持ち下さい．

・ 各発表のPowerPoint スライドショーの開始・終了は会場係が行いますが，発表中のスライド送り等は，PC のキーボードの操作により発表者ご自身で行っていただきます．なお，サイズが重いファイルはパソコン動作に不具合をきたすことがありますので，なるべく軽いファイルをご準備ください．

・ 講演要旨の訂正箇所が多い場合（訂正が2 カ所以上）は，朱書きで訂正した要旨のプリントアウトを座長に提出して校閲を受けるとともに，最終的な訂正原稿のファイルを10 月 6 日（金）までに，メールに添付して本年度の関西部会開催地事務局のアドレス（k-yamaguchi@nara.kindai.ac.jp）宛まで送付し，必ず受領連絡をお受け下さい．

座長の皆様へ

・ 部会前に講演要旨を読み，必要があれば事前のメールや部会当日の発表者との直接打合せ等で，要旨の訂正をお願いして下さ

・ 発表者から要旨の訂正依頼があった場合は，座長用の講演要旨集に赤字で直接記入するか，該当ページに訂正原稿を挟み込んで下さい. 講演要旨の訂正箇所が多い場合は，訂正要旨のプリントアウトを 校閲し，発表者に対して訂正原稿のファイルを 10 月 6 日(金)までに本年度の関西部会開催地事務 局のアドレス(k-yamaguchi@nara.kindai.ac.jp)宛に送付するようご指示下さい．

・ 発表10 分（予鈴8 分），討論2 分の計12 分の時間厳守で進行をお願い致します．

＜会場までのアクセス＞

電車でお越しの方

新大阪駅から

JR京都線（大阪方面）で大阪駅まで6分

JR環状線外回り（京橋、鶴橋方面）に乗り換え、　鶴橋駅まで約15分

近鉄奈良線（奈良方面）準急に乗車、富雄駅まで　約25分

地下鉄御堂筋線（難波方面）で難波駅まで約15分

近鉄奈良線・準急に乗車、富雄駅まで約30分

京都駅から

近鉄京都線・急行に乗車、西大寺駅まで約40分（特急では約30分）

近鉄奈良線・準急（難波方面）に乗り換え、富雄駅まで約7分

富雄駅から

・バスをご利用の方

西出口を出て、富雄川沿いを南に歩き、「新富雄橋」をわたる

「近畿大学バス乗場」で奈良交通バス乗車、キャンパスまで約10分

次ページにバス乗り場のMAPとバスの運行時刻が記載されています。

・タクシーをご利用の方

東出口を出て、冨尾駅前タクシー乗り場からタクシーをご利用いただけます。

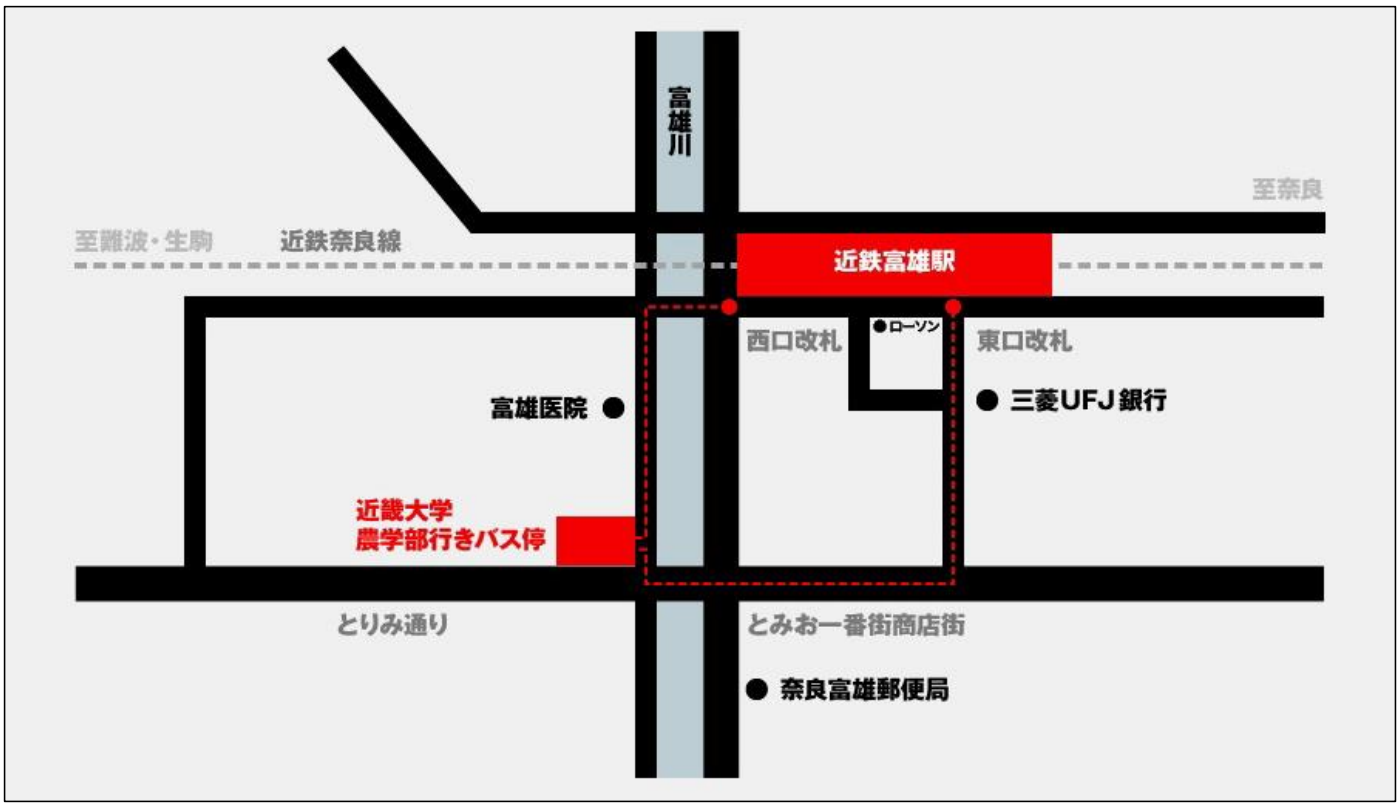
お車でお越しの方

・阪奈道路経由の場合：阪奈三碓I.C.を出て富雄川沿いに下り、近大橋東詰を右折

・第二阪奈有料道路経由の場合：中町ランプを出て富雄川沿いに上り、近大橋東詰を左折

・構内の北駐車場を無料開放しております。

富雄駅から近畿大学農学部行きバス停へのルート



バス運行ダイヤ

9月23日 土曜・祝日

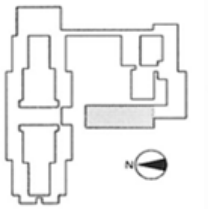
時間	富　雄　発	近畿大学発
7時		
8時		
9時	10	25
10時	30	
11時		
12時	20, 40	35
13時	20, 40	
14時	0	
15時		
16時		
17時	5	20
18時		25, 35, 45
19時		
20時		40, 50
21時		10

9月24日 日曜

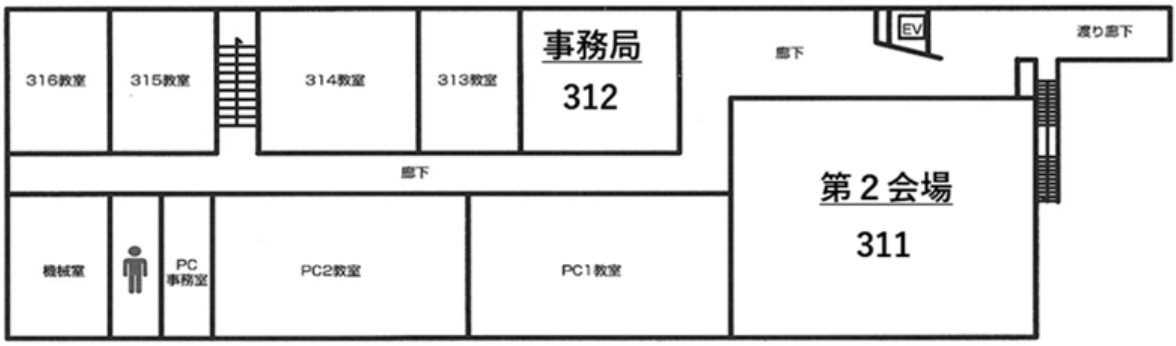
時間	富　雄　発	近畿大学発
7時		
8時	20, 30, 40, 50	
9時	10	25
10時		
11時		40, 50
12時	20	00, 10, 35
13時		
14時		
15時		
16時		
17時	5	20
18時		
19時		
20時		
21時		

・総会	209教室	・受付	新教室棟 エントランス
・第1会場	211教室	・PC受付	213教室
・第2会場	311教室	・休憩室	212教室, 216教室, 218教室
・第3会場	202教室	・役員会	312教室
・情報交換会	つながる館	・事務局	312教室

新　教　室　棟

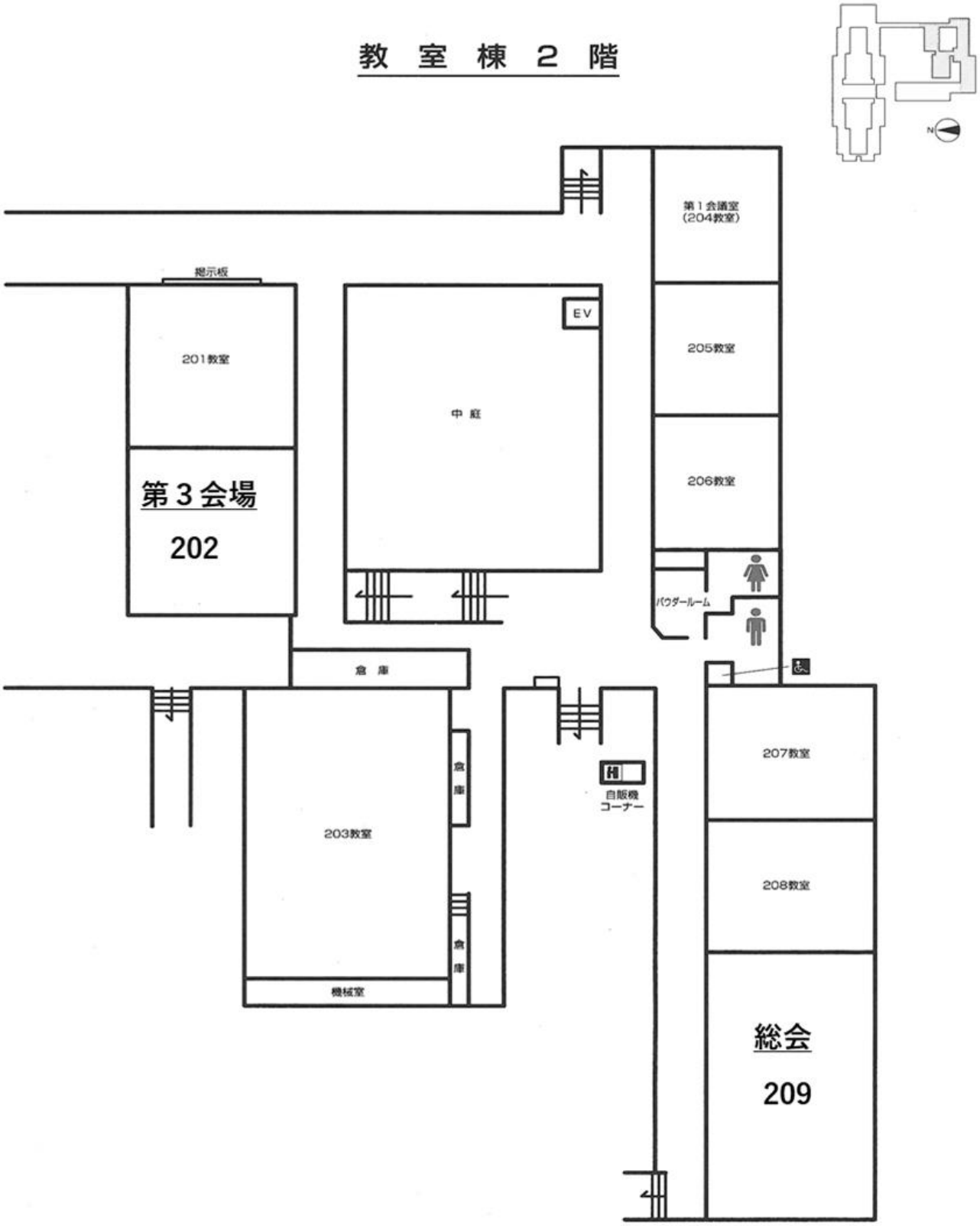


3　階



2　階

教　室　棟　２　階


N
第１会議室
(204教室)
205教室
206教室
掲示板
201教室
第３会場
202
EV
中庭
パウダールーム
倉庫
203教室
倉庫
倉庫
機械室
自販機
コーナー
207教室
208教室
総会
209

シンポジウム(部会長講演) 要旨

「ネオウイルス学から植物病理学へ」

令和 5 年度 日本植物病理学会関西部会長
鈴木 信弘（岡山大学・資源植物科学研究所）

「ネオウイルス学」とは、これまでウイルス学の発展に寄与してきた植物および動物の病原ウイルスではなく、目立たないウイルスに光を当てる学問である(Watanabe et al., Virus Res 2018)。菌類ウイルスは正にネオウイルス学の主役の一つに挙げられる。近年の菌類ウイルスの研究は、ウイルス全体の多様性・進化の理解に大きく貢献している(Kondo et al., Annu Rev Phytopathol 2022; Sato & Suzuki, Curr Opin Microbiol 2023)。例えば、裸性（粒子を作らずに生活環を全うする性質）、宿借性（他の dsRNA ウイルスノキャプシドを己のキャプシドに転用する性質）・宿主性（他の+RNA ウイルスにキャプシドを供与する性質）を示す奇妙なウイルスあるいは新規ウイルスライフスタイルの発見に繋がった(Sato et al., mBio 2022)。また、糸状菌類独自の抗ウイルス防御機構も見えてきた(Andika et al., PNAS 2017; 2019)。本講演では、ネオウイルス学研究から生まれた植物病理学上関連の深い重要な発見2つを紹介する。

宿借・宿主性は、ウイルス／ウイルス／病原子のう菌／植物の多様な多層性相互作用に大きな影響を及ぼす。系統学的に遠縁のウイルス2種が同一宿主糸状菌個体でパートナーシップを結び、それが宿主菌の植物への病原力に大きく影響を及ぼす。科学的に興味深い点は、1）宿借性を示す(+)RNA ウイルス（ヤドカリウイルス、*Yadokariviridae* の構成員）それぞれのパートナーは限定される（特異性が高い）が、ヤドカリウイルスが属する科全体としては全く異なる複数の科の dsRNA ウイルスとパートナーシップを結ぶ、2）パートナーウイルス間の相互作用はパートナーシップそれぞれにより全く異なり、拮抗、中立あるいは協調的となる。これらの分子機構の解明は、今後の検討課題である。

菌類ウイルスと宿主菌の間には、他のウイルス／宿主系と同じようにせめぎ合い（抗ウイルス防御とそれに対するウイルスの反撃）が繰り広げられる。菌類には、2層の抗ウイルス防御機構が知られている。一つ目は、細胞質不和合性で、集団レベルでのウイルス水平伝搬を阻害する。二つ目は、細胞レベルで機能する抗ウイルス RNAi で、ウイルス複製を阻害する。世界3大樹病の一つクリ胴枯病を引き起こす *Cryphonectria parasitica* では、上記2つ以外に、第3の抗ウイルス病徴軽減機構が存在することが明らかとなりつつある。ウイルス感染後、RNAi 関連遺伝子を含む多数の宿主遺伝子の転写を正に制御し、病徴を軽減する機構である。この制御には、転写活性化コファクターSAGA 複合体（ヒストン修飾酵素）の他に抗ウイルス RNAi の鍵因子ダイサー(DCL2)が必須である。DCL2 は、その転写調節にポジティブフィードバックプレイヤーとして機能する。すなわち、DCL2 が抗ウイルス RNAi の鍵役者としてだけではなく、新たに見つかった第3の抗ウイルス防御機構である病徴軽減機構の転写調節にも関与することを示す。SAGA 複合体因子のノックダウン植物が、野生型植物に比べウイルスに対してより高い感受性を示すことから、この第3の病徴軽減機構は植物でも保存されていることが示唆される。

9月23日	第1会場	第2会場	第3会場
	座長　岡田知之　101-104	座長　上中弘典　201-204	座長　佐藤育男　301-304
14:20	101 *Rhizopus arrhizus* によるニンニク腐敗病（新称） ○片山貴博[1]・西村文宏[1,2]・森充隆[1]・菰淵啓三[1]・佐藤豊三[3] ([1]香農試・[2]神戸大院農・[3]医薬健栄研薬植セ)	201 オオムギうどんこ病菌によるグリーンバイオニシア形成メカニズムの解析 在間玄香[1]・長門香澄[2]・小林括平[1]・藤井祥[3]・岩瀬哲[4]・久野裕[5]・小林康一[6]・永田典子[7]・○八丈野孝[1] ([1]愛媛大院農・[2]愛媛大農・[3]弘前大農生・[4]理研CSRS・[5]岡山大植物研・[6]大阪公大院理・[7]日本女子大理)	301 Relationship between biocontrol efficacy of *Pseudomonas fluorescens* complex strains and their nutrient utilization patterns ○Nur Adliza Binti Baharom[1], Saki Ikeda[1], Haruhisa Suga[2], Masafumi Shimizu[1] ([1]Grad. Sch. Nat. Sci. Tech., Gifu Univ.・[2]iGCORE, Gifu Univ.)
14:32	102 鳥取県における収穫出荷後のネギに発生した細菌性軟化腐敗症状について ○岩田侑香里[1]・田中陽子[2]・米村善栄[1]・木戸一孝[3] ([1]鳥取園試・[2]日野農業改良普及所・[3]鳥取大農)	202 GCaMP6fを利用したオオムギうどんこ病菌侵入抵抗性におけるカルシウムイオンの動態解析 ○小出陽菜[1]、長野眞依[1]、渡邊隆文[2]、小林括平[1]、吉田健太郎[3]、久野裕[4]、八丈野孝[1] ([1]愛媛大院農・[2]愛媛大農・[3]京都大院農・[4]岡山大植物研)	302 *Streptomyces* sp. O3株を用いたキュウリ炭疽病の抑制について（２） ○木村直人[1]・井野真稔[1]・木原淳一[1,2]・上野　誠[1,2] ([1]鳥取連大・[2]島根大自然)
14:44	103 *Pythium aphanidermatum* によるトウガン苗立枯病（新称） ○三宅律幸・松崎聖史・安田啓江・窪田尚正・河野恒賢・大竹孝昌 (JAあいち経済連)	203 パターン誘導免疫におけるイネユビキチンリガーゼPUB44の活性化機構の解明 ○西村 直也[1]・井澤 夏人[1]・吉村 智美[1]・山口 公志[1]・峠 隆之[2]・川崎 努[1] ([1]近大院農・[2]奈良先端大)	303 Effectiveness of the bacteriophage cocktail for controlling bacterial soft rot caused by *Pectobacterium* spp. ○Jepri Hari Adi[1,2], Sayuri Uematsu[1], Chie Yamamatsu[1], Masayoshi Hashimoto[1], Yuichi Takikawa[1], Hisae Hirata[1] ([1]静岡大農, [2]静岡大院ABP)
14:56	104 奈良県におけるQoI剤耐性トマト葉かび病菌の発生状況とピリベンカルブの防除効果 ○浅野峻介[1]・堀浩太朗[1]・平山喜彦[1,2] ([1]奈良農研セ・[2]現　龍谷大農)	204 DAMPs derived from plant cell wall, cello- and xylo-oligosaccharides, are recognized by a common mechanism via Arabidopsis LRR-malectin receptor kinase CORK1 ○Sreynich Pring[1], Hiroaki Kato[2], Maurizio Camagna[1], Aiko Tanaka[1], Ryohei Terauchi[2], Ikuo Sato[1], Sotaro Chiba[1] and Daigo Takemoto[1] ([1]Nagoya Univ., [2]Kyoto Univ.)	304 イネいもち病菌（*Pyricularia oryzae*）に対するクマザサ葉抽出液の生物活性について ○大城戸琢生・木原淳一・上野　誠 (島根大自然)

9月23日	第1会場	第2会場	第3会場
	座長　松浦昌平　105-108	座長　八丈野孝　205-208	座長　清水将文　305-308
15:08	105 トマト立枯病菌の各種殺菌剤に対する感受性評価 ○川上　拓・村田つばさ (三重農研)	205 BSL1はシロイヌナズナにおけるPEN2依存的な侵入阻止型の非宿主抵抗性に関与する ○小村浩加[1]・吉井寅起[1]・坂井遼太[1]・Paweł Bednarek[2]・三瀬和之[1]・峯　彰[1]・阿部　陽[3]・寺内良平[1,3]・高野義孝[1]（[1]京大院農・[2]IBCH PAS・[3]岩手生工研)	305 雑草から分離したME202菌株によるキュウリ炭疽病菌の抑制について（4） ○井野真稔[1]・木原淳一[1,2]・石原亨[3]・関宏太[4]・田中智也[4]・上野誠[1,2] ([1]鳥取連大・[2]島根大自然・[3]鳥取大院持続性社会・[4]鳥取大農)
15:20	106 イチゴうどんこ病菌分離菌株に対する薬剤検定試験 ○三田尾麻未[1]・高原杏実[1]・松田克礼[1]・野々村照雄[1,2] ([1]近畿大農・[2]近畿大アグリ技術革新研)	206 ベンサミアナタバコのCDPKsは転写調節および翻訳後修飾を介してRBOH由来のROS生産を誘導する ○日野雄太・矢田充弘・白石祐太郎・吉岡美樹・吉岡博文 (名大院生農)	306 水耕栽培で発生するホウレンソウ立枯病に対する水耕イチゴ由来*Trichoderma* 属菌株の抑制効果の評価 ○是信匠希[1]・小山修[2]・東條元昭[1] ([1]大阪公大院農・[2]アグリバイオシステム)
15:32	107 キク白さび病に対するインピルフルキサムとピラクロストロビンの防除効果とその感受性 ○堀浩太朗・浅野峻介 (奈良農研セ)	207 ベンサミアナタバコのROSセンサー候補タンパク質CIPKはRBOHの活性調節に関与する ○松吉紀佳・日野雄太・岡本渓太・稲田太一・吉岡美樹・森 仁志・吉岡博文 (名大院生農)	307 バナナパナマ病のバイオコントロールを目的とした有用微生物の探索 ○冨田百合子[1]・木戸一孝[2]・有江　力[3]・児玉基一朗[4] ([1]鳥取大院・[2]鳥取大農FSC・[3]農工大院農・[4]鳥取大農)
15:44	108 常温煙霧処理による薬剤の付着と防除効果 ○岡田知之・島本文子・下元祥史 (高知農技セ)	208 半活物寄生菌や殺生菌を接種したベンサミアナタバコにおけるSA・JAシグナルの時空間的な活性動態 ○林 優介[1]・吉岡美樹[1]・日野雄太[1]・安達広明[2]・高野義孝[2]・別役重之[3]・鳴坂真理[4]・鳴坂義弘[4]・吉岡博文[1] ([1]名大院生農・[2]京大院農・[3]龍谷大農・[4]岡山生物研)	308 トマト萎凋病菌が産生する萎凋毒素フザリン酸は、*Stenotrophomonas* sp. 58Uによって水酸化される ○松尾百華・寺元茜・澤田祐次・田川克滉・鈴木萌・千葉壮太郎・竹本大吾・佐藤育男(名大院生農)

9月23日	第1会場	第2会場	第3会場
	座長　平山喜彦　109-112	座長　松井英譲　209-212	座長　都筑正行　309-312
15:56	109 モモ胴枯細菌病菌に対する熱水処理における死滅温度条件 ○桐野菜美子 (岡山農研)	209 ジャガイモ葉では揮発性セスキテルペノイドが侵入前あるいは侵入後抵抗性に関与する ○吉岡美樹[1]・松永彩加[2]・五味剣二[2]・近藤竜彦[1]・道家紀志[1]・吉岡博文[1] ([1]名大院生農・[2]香川大農)	309 ジクロロイソシアヌル酸ナトリウム剤によるトマト根腐病菌の殺菌効果 ○村田つばさ[1]・川上　拓[1]・岡崎顕治[2] ([1]三重農研・[2]四国化成ホールディングス（株）)
16:08	110 Management of fusarium basal rot disease caused by *Fusarium acutatum* , isolated from onion production field in Myanmar ○Nilar Myint [1], Kosei Sakane [2], Shin-ichi Ito [1], Kazunori Sasaki [1] ([1]Yamaguchi University・[2]Tottori University)	210 ベンサミアナタバコにおける免疫受容体ネットワークの制御因子の細胞内局在解析 ○本田晃大[1]・大津美奈[2・3]・寺内良平[1]・安達広明[1・3] ([1]京大院農・[2]奈良先端大バイオ・[3]JSTさきがけ)	310 腐植酸資材処理によるハクサイ根こぶ病の発生抑制効果の検証 ○北林奨也[1]・川口章[1]・西村文宏[2]・片山貴博[2]・森充隆[2]・井上康宏[3] ([1]農研機構西農研・[2]香川農試・[3]農研機構植防研)
16:20	111 Colorimetric LAMP assay for rapid detection of carbendazim-resistant *Colletotrichum truncatum* isolates possessing the F200Y mutation in the ß-tubulin gene ○Teeranai Poti[1]・Sarunya Nalumpang[2]・Kazuya Akimitsu[1] ([1]Faculty of Agriculture, Kagawa University・[2]Faculty of Agriculture, Chiang Mai University)	211 種子植物に保存された免疫受容体*ZAR1*遺伝子の進化学的解析 ○安達広明[1,2]・堺俊之[1]・Jiorgos Kourelis[3]・Hsuan Pai[3]・Jose L. Gonzalez Hernandez[4]・内海好規[5]・関原明[5,6,7]・Abbas Maqbool[3]・Sophien Kamoun[3] ([1]京大院農・[2]JSTさきがけ・[3]センズベリー研究所・[4]サウスダコタ州大・[5]理研CSRS・[6]理研CPR・[7]横浜市大)	311 *Pseudomonas syringae* pv. *tabaci* 6605が正の走化性応答を示す植物アポプラスト液のメタボローム解析 ○渡邊雄太[1]・Stephany Angelia Tumewu[1,3]・山田創[2]・松井英譲[1,2]・山本幹博[1,2]・能年義輝[1,2]・豊田和弘[1,2]・一瀬勇規[1,2] ([1]岡山大院環境生命科学・[2]岡山大農・[3]現岐阜大院自然科学技術)
16:32	112 おとり植物を利用したMirafiori lettuce big-vein virus発病リスクのモニタリング ○池田健一・伊藤大貴・中屋敷均 (神戸大院農)	212 二粒系コムギ系統St24が保有する抵抗性遺伝子*Rmg7*の単離 ○髙橋美乃・吉岡資洋・足助聡一郎・土佐幸雄 (神戸大院農)	312 植物免疫におけるシロイヌナズナMKK3上流MAPKKK *MTK1* の制御下にある遺伝子群の同定と解析 新谷光雄[1]・山中啓嗣[1]・永田雅也[1]・松村美里[1]・横田航平[1]・中村雅子[1]・瀧澤香[2]・松岡大介[3]・望月進[1]・秋光和也[1]・白須賢[2]・○市村和也[1] ([1]香大農・[2]理研CSRS・[3]甲子園大栄養)

9月23日	第1会場	第2会場	第3会場
	座長　北林奨也　113-115	座長　津島綾子　213-215	座長　竹本大吾　313-315
16:44	113 タマネギベと病菌とタマネギ由来DNAの土壌からの検出量の変化 ○西村文宏[1,2]・池田健一[2]・片山貴博[1]・菰淵啓三[1] ([1]香農試・[2]神戸大院農)	213 *Aegilops umbellulata* におけるコムギいもち病抵抗性遺伝子*Rmg8* バリアントの機能解析 ○柴田茉依・高橋美乃・吉岡資洋・足助聡一郎・土佐幸雄 (神戸大院農)	313 シロイヌナズナ*hen2* 変異体における*RPS6* の機能欠損に*RPS6* の3′ 領域から生じる転写物が関与する ○川人恵理香[1]・永井鈴奈[1]・高木桃子[1,2]・白須賢[3]・望月進[1]・秋光和也[1]・市村和也[1] ([1]香大院農・[2]名大ITbM・[3]理研CSRS)
16:56	114 イチゴ炭疽病菌の非宿主植物における越冬と新葉への感染 ○寺田稀衣子[1]・吉村大輔[1]・浅野峻介[2]・平山喜彦[1] ([1]龍谷大農・[2]奈良農研セ)	214 感染環境を模した培養条件下におけるコムギいもち病菌の遺伝子発現解析 ○森本熱海・馬場智子・Thach An Dang・小林奈月・池田健一・中屋敷均 (神戸大院農学研究科)	314 青枯病菌アンキリンリピートエフェクター形質転換シロイヌナズナは自己免疫表現型を示す ○髙楠万結[1]・枝木美樹[1]・土屋慧宜[1]・北村理人[1]・吉岡博文[2]・望月進[1]・秋光和也[1]・市村和也[1] ([1]香大院農・[2]名大院生農)
17:08	115 水耕栽培で発生するホウレンソウオルピディウム根腐病菌の単遊走子嚢分離株を維持する手法の開発 ○梅井貴史・東條元昭 (大阪公大院農)	215 紋枯病菌のミナトカミジグサ葉への感染過程の菌糸の時系列観察 ○山田悠生[1]・前田直輝[2]・渡邉恵[1]・松井英譲[1]・一瀬勇規[1]・豊田和弘[1]・能年義輝[1] ([1]岡山大院環境生命自然・[2]岡山大農)	315 *Nicotiana benthamiana* 植物由来のInositol 1,3,4-Trisphosphate 5/6-Kinase 2は活性酸素シグナルの調節を介して過敏感細胞死を負に制御する ○鶴 翼[1]・坂東卓弥[1]・大西浩平[2]・曳地康史[1]・都筑正行[1]・木場章範[1] ([1]高知大農林海洋・[2]高知大総研セ)

9月23日	第1会場	第2会場	第3会場
	座長　川上拓　116-119	座長　髙原浩之　216-218	座長　安達広明　316-319
17:20	116 温度及び湿度がアスパラガス褐斑病菌の生育及び発病に及ぼす影響 ○矢尾幸世 (岡山農研)	216 いもち病菌の根への感染機構の解明（３）黒変病斑の特徴付けと黒変形成に関わるピリカラシンＨ合成遺伝子クラスターの*Pyricularia*属菌における分布様式 ○向子愷・中屋敷均・池田健一 (神大院農)	316 イネもみ枯細菌病菌が引き起こす苗腐敗症に対する抵抗性因子の単離と機能解析 ○石川和也[1]・伊藤和江[2]・宇津志博恵[2]・小笠原由美子[2]・神崎英子[2]・竹田匠[2]・寺内良平[2, 3]・阿部陽[2] ([1]立命館大学、[2]岩手生物工学研究センター、[3]京都大学大学院農学研究科)
17:32	117 発病予測モデルに基づいたナス黒枯病の効果的な防除方法の検討 ○林　一沙[1]・森實祐香[1]・岡田知之[1]・藤岡宏樹[2] ([1]高知農技セ・[2]農研機構農情研)	217 ナス科植物のファイトアレキシンであるリシチンの*Botrytis cinerea*による解毒化機構による新たな代謝産物の検出と代謝酵素遺伝子の特定 ○Abriel Salaria Bulasag[1,2]・小鹿一[1]・芦田晃[1]・佐藤育男[1]・千葉壮太郎[1]・竹本大吾[1] ([1]名大院生農・[2]CAS, Univ of the Philippines Los Baños)	317 Red clover necrotic mosaic virusの移行タンパク質の細胞内局在に関与する機能領域の同定 ○髙田昌汰[1]・河野早帆[1]・峯彰[1]・三瀬和之[1]・高野義孝[1]・海道真典[2] ([1]京大院農・[2]摂南大農)
17:44	118 トマトすすかび病の潜伏期間、および品種と窒素施用量が発病に及ぼす影響 ○清水佐知子・奥村裕紀子 (広島総研農技セ)	218 植物が異物として認識するジャガイモ疫病菌由来の不飽和脂肪酸エリシター内の分子構造の特定 ○太田里水[1]・Mohammad Shahjahan Monjil[1]・加藤大明[2]・松田健太郎[1]・鈴木捺美[1]・Maurizio Camagna[1]・田中愛子[1]・寺内良平[2]・佐藤育男[1]・千葉壮太郎[1]・川北一人[1]・小鹿一[1]・竹本大吾[1] ([1]名大院生農・[2]京大院農)	318 ZIP3によるbZIP型転写因子を介したOsRBOHHの転写制御機構の解析 ○豊田宗一朗・山田朋輝・西村太樹・吉村智美・川崎努・山口公志 (近大院農)
17:56	119 コムギいもち病菌汚染種子の生長過程における菌の局在性解析 ○奥田樹[1]・内橋嘉一[2]・中屋敷均[1]・土佐幸雄[1]・池田健一[1] ([1]神戸大院農・[2]兵庫農技総セ)		319 イネNB-LRR型受容体Xa1複合体による細胞死誘導機構 ○吉久采花[1]・吉村智美[1]・清水元樹[2]・豊田正嗣[3]・山口公志[1]・川崎努[1] ([1]近畿大院農・[2]岩手生工研・[3]埼玉大院理工)

9月24日	第1会場	第2会場	第3会場
	座長　桐野菜美子　120-123	座長　足助聡一郎　219-222	座長　河野洋治　320-323
9:00	120 イネもみ枯細菌病菌*Burkholderia glumae*による苗腐敗症の発病試験系の確立とその地上部および地下部の病徴 ○井之口曜・太田光祐・芦澤武人 (農研機構植防研)	219 *Stemphylium*属病原菌の宿主特異性と植物毒素生成能の検討 ○石井あゆみ[1]・藤原更紗[1]・小野俊洋[1]・南山友花[1]・眞殿陽大[1]・棚橋恵[2]・遠藤直樹[1]・石原亨[1]・大﨑久美子[1] ([1]鳥取大農・[2]新潟農総研園研セ)	320 シロイヌナズナにおける CEP ペプチドの成長と免疫に対する作用 ○長谷川晴香[1]・伊藤千晶[1]・澤田健太郎[1]・石田壮太[1]・松井英譲[1]・能年義輝[1]・一瀬勇規[1]・白石友紀[2]・豊田和弘[1] ([1]岡大院環生・[2]岡山生物研)
9:13	121 イネもみ枯細菌病の発生に影響を及ぼす気象パラメータの検討 ○内橋　嘉一[1]・井之口　曜[2]・原田　正志[1]・松本　純一[1]・芦澤　武人[2] ([1]兵庫農技総セ・[2]農研機構植防研)	220 ヒストンH3のK9およびK27トリメチル化は牧草共生糸状菌*Epichloë festucae*の共生関連遺伝子の発現パターンを制御する ○三浦敦士・一柳健司・佐藤育男・千葉壮太郎・田中愛子・竹本大吾 (名大院生農)	321 CEP14 ペプチドによるシロイヌナズナの免疫応答の制御 ○石田壮太[1]・伊藤千晶[1]・長谷川晴香[1]・澤田健太郎[1]・松井英譲[1]・能年義輝[1]・一瀬勇規[1]・白石友紀[2]・豊田和弘[1] ([1]岡大院環生, [2]岡山生物研)
9:26	122 アブラナ科斑点細菌病菌*Xanthomonas campestris* pv. *raphani*に汚染したダイコン種子ロットにおける潜在的発病リスク ○池澤唯灯・北原瞳・野波和好・近藤謙介・木戸一孝 (鳥取大農)	221 カンキツ黒腐病菌*Alternaria citri*の厚膜胞子形成を誘起する単糖について ○鈴木彩加・有田佳司・山野竜一郎・石原亜由美・大谷耕平・加藤 寛・一色淳憲・何森 健・吉原明秀・望月 進・市村和也・五味剣二・秋光和也 (香川大農)	322 リン枯渇環境適応における免疫受容体PEPRを介した免疫増進機構の解析 ○土田菜月[1]・山下昂太[2]・石原大雅[1]・只井遥菜[1]・安田盛貴[1]・梅澤泰史[2]・西條雄介[1]　([1]奈良先端大・[2]農工大院BASE)
9:39	123 スイカ緑斑モザイクウイルスに感染したメロン果実から採種した種子における種子伝染について ○渡部結花[1]・前田七海[1]・山下燿[1]・杉原弘貢[2]・桑原隼也[2]・望月知史[3]・石原亨[1]・木戸一孝[1] ([1]鳥取大農・[2]鳥取大技術・[3]大阪公大農)	222 トマト萎凋病菌由来のb-マンナナーゼMan134Aの機能解析 ○江頭蒼一郎[1]・関谷千星[1]・志水元亨[2]・上坂一馬[1]・千葉壮太郎[1]・竹本大吾[1]・佐藤育男[1] ([1]名大院生農・[2]名城大農)	323 植物の病原菌-共生菌応答比較解析に基づく免疫・成長バランス制御機構の解明 ○石原大雅・安田盛貴・西條雄介 (奈良先端大バイオ)

9月24日	第1会場	第2会場	第3会場
	座長　井之口曜　124-127	座長　市村和也　223-226	座長　能年義輝　324-327
9:52	124 ヒロシマナ中助褐色斑の発生にウイルス感染は関与しているのか？ 〇松浦昌平[1]・原田美穂子[1]・Hnin, A.T.[2]・小林優大[2]・竹下　稔[2] ([1]広島総研農技セ・[2]宮崎大学農学部)	223 *Brassica rapa* におけるアブラナ科炭疽病菌の病原性分化 〇日比野隼平・髙原浩之 (石川県立大院)	324 イネ共生細菌の免疫制御OsPepペプチドを介した根感染 〇井上加奈子[1], 藤雅子[1], 永易将弘[1], 前田英史[2], 木戸將太[1], 西條雄介[1] ([1]NAIST・[2]龍大理工)
10:05	125 タバコ野火病菌のpoly Type III effector deletion mutant seriesの構築と病原力の解析 黒江香那・西村隆史・能年義輝・山本幹博・豊田和弘・一瀬勇規・〇松井英譲 (岡大院環生)	224 トマト根腐萎凋病菌の病原性遺伝子の同定 〇黒田絢子・楢崎浩暉・伊藤真一・佐々木一紀 (山口大農)	325 希少糖の植物への作用 (65)：イネphosphoglucose isomeraseのG6P/F6P異性化活性に与えるA6Pの影響 〇竹﨑真帆[1]・江島早紀[1]・望月 進[1]・加野彰人[1]・福元健志[1]・小原敏明[2]・市村和也[1]・五味剣二[1]・何森 健[1]・秋光和也[1] ([1]香川大農・[2]三井化学アグロ)
10:18	126 タバコ野火病菌のType III effector欠損株が病原力に与える影響 〇黒江香那[1]・樫原沙知[1]・西村隆史[1]・能年義輝[1]・山本幹博[1]・豊田和弘[1]・中神弘史[2]・一瀬勇規[1]・松井英譲[1] ([1]岡大院環生・[2] MPIPZ)	225 ネギ萎凋病菌におけるエフェクター遺伝子*Cep28* の同定 〇坂根光星[1]・船橋佑太[2]・Nilar Myint[2]・伊藤真一[2]・佐々木一紀[2] ([1]鳥取連大, [2]山口大農)	326 希少糖の植物への作用 (66)：希少糖誘導性糖トランスポーターの探索に向けて 〇松岡佑奈・竹﨑真帆・江島早紀・加野彰人・何森 健・望月 進・市村和也・五味剣二・秋光和也 (香川大農)
10:31	127 青枯病菌OE1-1株における主要な遺伝子ネットワークの推定 〇都筑正行・舘田宇宙・植山竜弥・阿部悠里・寺澤夕貴・竹村知夏・瀬沼和香奈・木場章範・大西浩平・曳地康史 (高知大農林海洋)	226 タマネギ乾腐病菌が分泌するエフェクターSIX3およびSIX5の宿主細胞内局在 〇船橋佑太[1]・坂根光星[2]・伊藤真一[1]・佐々木一紀[1] ([1]山口大農, 2鳥取連大)	327 イネ白葉枯病抵抗性に重要なCommon Defense SystemにおけるOsNPR1の役割に関する研究 〇鈴木豪[1]・濵中美帆[2]・谷口しづく[1]・五味剣二[1,2] ([1]愛媛連大農・[2]香川大農)

9月24日	第1会場	第2会場	第3会場
	座長　池田健一　128-130	座長　佐々木 一紀　227-229	座長　海道真典　328-330
10:44	128 青枯病菌OE1-1株の鉄環境に応答したFerric uptake regulatorによる遺伝子発現制御機構 〇舘田宇宙・寺澤夕貴・木場章範・大西浩平・曳地康史・都筑正行 (高知大農林海洋)	227 FbLFV1およびD-RNAコードタンパク質は協調的に宿主*Fusarium boothii* の生育阻害と病原性低下を誘導する. 〇Abbhi Vanshika[1]・佐藤友理沙[1]・金森公太郎[2]・水谷行善[1]・佐藤育男[1]・竹本大吾[1]・近藤秀樹[3]・鈴木信弘[3]・須賀晴久[4]・千葉壮太郎[1] ([1]名大院生農・[2]岐大院自然科学・[3]岡山大植物研・[4]岐大iGCORE)	328 OsbZIP01によって制御されているジャスモン酸誘導性イネ白葉枯病抵抗性機構の解析 〇福田麻夏・門田晴香・五味剣二 (香川大農)
10:57	129 青枯病菌OE1-1株における新規のクオラムセンシング関与遺伝子の探索 〇阿部悠里・佐々木将太郎・木場章範・大西浩平・曳地康史・都筑正行 (高知大農林海洋)	228 イネいもち病菌が分泌する自己感染促進因子2'-デオキシウリジン(dU)の機能解析 〇胡浩偉・竹本大吾・千葉壮太郎・佐藤育男 (名大院生農)	329 BNYVV病原性セグメントRNA3を標的としたクロスプロテクションの検討 〇近藤花保[1]・佐藤育男[1]・竹本大吾[1]・近藤秀樹[2]・千葉壮太郎[1] ([1]名大院生農・[2]岡大植物研)
11:10	130 クオラムセンシング活性化時の青枯病菌OE1-1株における主要な菌体外多糖EPS I産生の制御 〇植山竜弥・舘田宇宙・竹村知夏・寺澤夕貴・木場章範・大西浩平・曳地康史・都筑正行 (高知大農林海洋)	229 エンバクのいもち病抵抗性遺伝子*Rbl1*, *Rbl2* に対する非病原力遺伝子の同定 〇立松優奈・宮本麻衣・足助聡一郎・土佐幸雄 (神戸大院農)	330 *Neurospora crassa* 無細胞タンパク質合成系での菌類ウイルスIRES活性の立証 〇上田茜[1]・Neang Sokty[1]・佐藤育男[1]・竹本大吾[1]・鈴木信弘[2]・千葉壮太郎[1] ([1]名大院生農, [2]岡大植物研)